



# サウンドバー

## リファレンスガイド

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故  
になることがあります。

このリファレンスガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い  
かたを示しています。このリファレンスガイドと別冊の取扱説明書をよくお読みの  
うえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-ST7

# ⚠ 警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



## 安全のための注意事項を守る

3~5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

7~8ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

## 定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりと差し込まれているか、などを点検してください。

## 故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

## 万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ①電源を切る
- ②電源プラグをコンセントから抜く
- ③お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

## 警告表示の意味

本リファレンスガイドおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

### ⚠ 危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

### ⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

### ⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

#### 注意を促す記号



火災

感電

#### 行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

#### 行為を指示する記号



指示

プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により死亡や大けがの原因となります。

## 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のある場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

## 内部に水や異物を入れない

### 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

## キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

## 雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

## 本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



指示

## 風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

## 電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

## 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- ・設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- ・電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- ・重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- ・熱器具に近づけない。加熱しない。
- ・移動させるときは、電源コードを抜く。
- ・電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



禁止

→ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

## ⚠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

### 上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

### 上に物を置かない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

### ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

### 大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

▶ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

### 安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

### コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

### 移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

### お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

### 心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



注意

### 可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーター やスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

### 設置上のご注意

本機の角だけがなどをしないように、お気を付ください。

### サブウーファーの取り扱いについて

サブウーファーを持ち上げるときは、スリットの中に手を入れないでください。スピーカードライバーが破損する恐れがあります。持ち上げるときは、底面を持ってください。

## 電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。



### 電池の液が漏れたときは

#### 素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



#### 必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



### 電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



### 電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



### 指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



### +と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



### 使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



---

# 目次

安全のために .....	2
使用上のご注意 .....	7
BLUETOOTH無線技術について .....	9
バースピーカーを壁に取り付ける .....	10
IRリピーター機能を有効にする（テレビのリモコンで操作が できない場合） .....	11
セキュアリンク接続を使う .....	12
HDMI機器制御機能を使う .....	14
“ブラビアリンク”を使う .....	15
故障かな？と思ったら .....	16
保証書とアフターサービス .....	20
主な仕様 .....	21

# 使用上のご注意

## 設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ・ぐらついた台の上や不安定な所。
- ・毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- ・湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ・ほこりの多い所。
- ・特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- ・直射日光が当たる所、温度が高い所。
- ・極端に寒い所。
- ・チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
- ・電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

## 設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。

## 音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

## ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



## 本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本リファレンスガイドの裏表紙をご覧ください。



この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。



この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

## 機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

## テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15~30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、本機をさらにテレビから離してください。

## 商標について

本機はドルビーデジタル\*およびDolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS\*\*およびDTS 96/24デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。

\* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

\*\* 米国特許番号5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国外で発効または申請中の特許に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、およびDTS-HDとシンボルの組み合わせはDTS, Inc.の登録商標です。また、DTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 不許複製。

BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC. の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®) 技術を搭載しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

“プラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

AndroidはGoogle Inc.の商標です。

「おサイフケータイ」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

aptX®およびaptXロゴはCSR社の登録商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

# BLUETOOTH無線技術について

## BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したもので、本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについて詳しくは、「主な仕様」(21ページ)をご覧ください。

### ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

## 通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

## 他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、無線LANから10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

## 他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

### ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, INC.の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

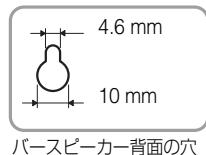
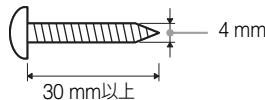
# バースピーカーを壁に取り付ける

下記の手順でバースピーカーを壁に取り付けることができます。

## ご注意

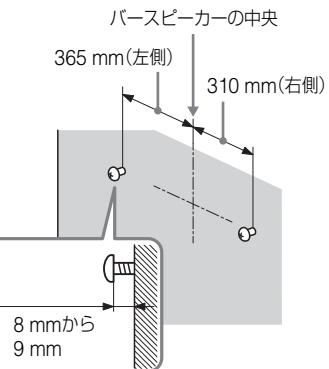
- ・壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。バースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- ・販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- ・取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

## 1 バースピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。



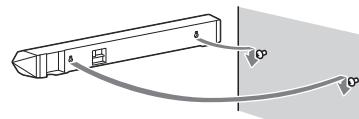
## 2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から8 mmから9 mm突き出すようにとめてください。



## 3 バースピーカー背面の穴をネジにかける。

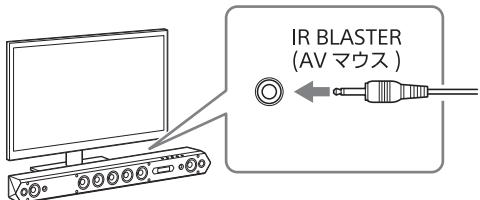
バースピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2箇所同時に取り付けてください。



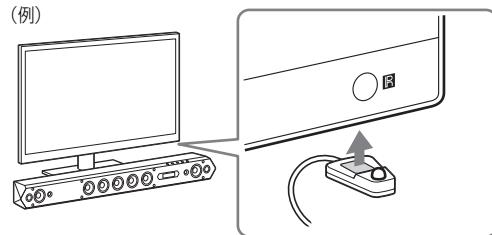
# IRリピーター機能を有効にする (テレビのリモコンで操作ができない場合)

バースピーカーをテレビの前に設置すると、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなることがあります。そのような場合は、付属のAVマウスをバースピーカーのAVマウス端子につなぎ、IRリピーター機能を有効にしてください。AVマウスを介してテレビのリモコン操作が可能になります。

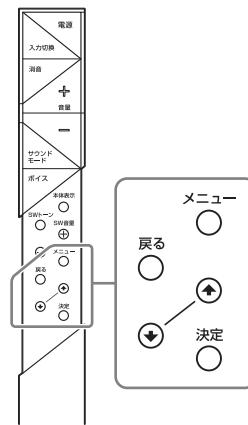
## 1 付属のAVマウスを本機のAVマウス端子につなぐ。



## 2 AVマウスのリモコン発光部をテレビのリモコン受光部に向けて近くに置く。



## 3 リモコンのメニュー ボタンを押す。



- 4 ↑/↓を繰り返し押して「SYSTEM」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 5 ↑/↓を繰り返し押して「IR REP.」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 6 ↑/↓を繰り返し押して「ON」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 7 メニューボタンを押す。

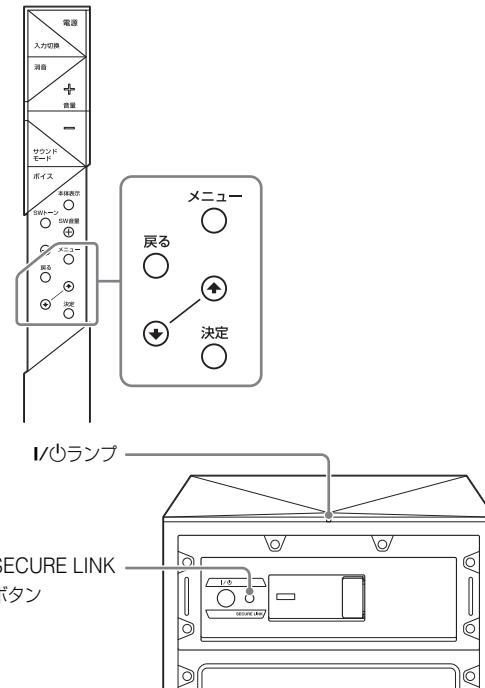
メニュー表示が消えます。

#### ご注意

- ・リモコン受光部の位置は、お使いのテレビによって異なります。お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ・AVマウスを接続してから、本機の電源コードをつないでください。
- ・AVマウスをテレビのヘッドホン端子などにつながないでください。
- ・AVマウスは本来の用途以外の使用はしないでください。
- ・IRリピーター機能を有効にして動作確認を行ってから、AVマウスを付属の両面シールで固定してください。
- ・お使いの製品によって、AVマウスの位置は異なります。
- ・テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから「ON」に設定してください。操作できるときに「ON」にすると、テレビのリモコンからの直接の信号と本機で中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。
- ・お使いのテレビによっては機能しない場合があります。その場合は、AVマウスの向き、あるいはバースピーカーの設置のしかたを変えてみてください。

## セキュアリンク接続を使う

セキュアリンク接続を使用することでワイヤレス接続のリンク先をお使いのバースピーカーとサブウーファーに特定できます。複数のワイヤレスサウンド機器が存在するときに、この機能を使用することで混信を防ぐことができます。



- 1** リモコンのメニューボタンを押す。
- 2** ↑/↓を繰り返し押して「WS」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 3** ↑/↓を繰り返し押して「SEC. ON」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 4** 表示窓に「START」が表示されたら、決定ボタンを押す。  
「SEARCH」が表示され、セキュアリンク可能な機器を検索します。  
2分以内に次の手順に進んでください。  
機器の検索中にセキュアリンク接続を解除するには 戻るボタンを押します。
- 5** サブウーファーのSECURE LINKボタンをペンの先などで押す。  
サブウーファーのI/Offランプが黄色に点灯し、バースピーカーの表示窓に「OK」が表示されます。  
「FAILED」が表示された場合は、サブウーファーの電源が入っていないことを確認し、手順1 からやり直してください。
- 6** メニューボタンを押す。  
メニュー表示が消えます。

### セキュアリンクの設定を解除する

- 1** リモコンのメニューボタンを押す。
- 2** ↑/↓を繰り返し押して「WS」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 3** ↑/↓を繰り返し押して「SEC.OFF」を表示させ、決定ボタンを押す。
- 4** 表示窓に「OK?」が表示されたら、決定ボタンを押す。  
表示窓に「FINISH」が表示されます。
- 5** メニューボタンを押す。  
メニュー表示が消えます。
- 6** サブウーファーのSECURE LINKボタンを、I/Offランプが緑色に点灯または点滅するまで数秒間押す。  
SECURE LINKボタンはペンの先などで押してください。

# HDMI機器制御機能を使う

本機のHDMI機器制御機能の設定を有効にし、HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のような機能を使って操作を簡単に行うことができます。

## 電源オフ連動

テレビの電源オフに連動して、本機とつないだ機器の電源も切ることができます。

## システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機のスピーカーから出力されます。テレビの音量を調節すると、本機の音量を調節できます。

前回テレビの電源を切ったときに本機のスピーカーから音を出していた場合は、次にテレビの電源を入れたときに、本機の電源が自動で入り、テレビの音声は自動的に本機のスピーカーから出力されます。

## ワンタッチプレイ

本機にHDMIケーブルで接続した機器を再生すると、自動的にテレビの電源が入り、本機の入力が切り換わります。

### ご注意

- 製品により、対応しないものがあります。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

## オーディオリターンチャンネル

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応したテレビの場合は、HDMIケーブルをつないだだけでテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

# “プラビアリンク”を使う

プラビアリンク対応製品では、ソニー独自の以下の機能も使うことができます。

## HDMI信号パススルー機能の省電力設定

“プラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、本機のHDMI信号パススルー機能を「AUTO」に設定してテレビの電源を切ると、HDMI信号パススルーを停止させ、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます。

## オートジャンルセレクター

「オートジャンルセレクター」に対応したテレビをお使いのときは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドモードに自動的に切り換えることができます。

## HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dおよび4Kの映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI認証を受けたHDMIケーブルをご使用ください。  
ケーブルタイプロゴの明記されたソニー製のHigh Speed HDMIケーブルをご使用ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。

- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかつたり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定もご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることができます。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力 TV ARC端子の映像や音声が乱れたり再生できなくなる場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- 本機の入力が「TV」のときは、HDMI出力 TV ARC端子からは前回選択されたHDMI入力（HDMI入力 1/2/3）の映像が output されます。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”、3Dおよび4K伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®3”など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- 4K映像を楽しむには、本機に接続しているテレビやプレーヤー機器も4K映像に対応している必要があります。

# 故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

## 電源

### 電源が入らない

→ 電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。

### 本機の電源が勝手に切れてしまう

→ オートスタンバイ機能が働いている。「A. STBY」を「OFF」にする（取扱説明書の「設定する」を参照）。

## 音声

### 本機からテレビの音声が出ない

→ 正しい入力を選んでいるか確認する。また、入力切換ボタンを繰り返し押して入力を切り換えてみる（取扱説明書の「音声を聞く」を参照）。

→ テレビと本機をつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声コード、またはアナログ音声コードの接続を確認する（取扱説明書の「接続する」を参照）。

→ 表示窓に「TV」と表示されているか確認する。

→ テレビの音声出力設定を確認する。

→ テレビの音が小さい設定または消音になっていないか確認する。

→ オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビをHDMI接続しているときは、テレビ側のHDMI（ARC）端子に接続されているか確認する。

→ オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないテレビをHDMI接続しているときは、光デジタル音声コードも接続する。HDMI接続だけではテレビの音が出ません。

### 本機とテレビの両方から音が出る

→ 本機またはテレビを消音する。

### テレビの音声が映像より遅れる

→ 「SYNC」が「1~4」に設定されていたら、「OFF」に設定する（取扱説明書の「設定する」を参照）。

### バースピーカーにつないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

→ 音量+ボタンを押して、音量を上げる（取扱説明書の「各部の名前」を参照）。

→ リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除する（取扱説明書の「各部の名前」を参照）。

→ 正しい入力を選んでいるか確認する。また、入力切換ボタンを繰り返し押して入力を切り換えてみる（取扱説明書の「音声を聞く」を参照）。

→ つないだ機器が正しく選択されているか確認する。

→ つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかりと差し込まれているか確認する。

## サブウーファーの音声が出ない、または音が小さい

- リモコンのSW音量+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げる（取扱説明書の「各部の名前」を参照）。
- サブウーファーのI/Offランプが緑色に点灯していることを確認する。緑色に点灯していない場合は、「ワイヤレスサウンドシステム」の「サブウーファーから音声が出ない」の項目を参照してください（18ページ）。
- サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、サブウーファーから音は出ません。

## Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

- ブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなど、本機につないでいる機器でDolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

## サラウンド効果が得られない

- サウンドモードの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- サラウンド効果機能対応のブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなどをつないでいる場合には、本機のサラウンド効果が得られないことがあります。その場合には、つないだ機器のサラウンド機能の設定をオフにしてください。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

## BLUETOOTH

### BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHランプが青く点灯していることを確認する（取扱説明書の「BLUETOOTH搭載機器の音声を聞く」を参照）。

本機の状態	ランプの状態
BLUETOOTHペアリング中	速く点滅
接続待機中	点滅
接続完了	点灯
BT Standby中（電源オフ時）	ゆっくり点滅

- 接続相手のBLUETOOTH搭載機器に電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認する。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器をできるだけ近づける。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器を再度、ペアリングする。  
—BLUETOOTH搭載機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。

### ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH搭載機器をなるべく近づけてからペアリングを行う（取扱説明書の「BLUETOOTH搭載機器の音声を聞く」を参照）。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認する。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使う。

### つないだBLUETOOTH搭載機器からの音が出ない

- BLUETOOTHランプが青く点灯していることを確認する（取扱説明書の「BLUETOOTH搭載機器の音声を聞く」を参照）。

[次のページへつづく](#)

- 本機とBLUETOOTH搭載機器をできるだけ近づける。
- 無線LANや他のBLUETOOTH搭載機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使う。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- 接続相手のBLUETOOTH搭載機器の位置を変える。
- Wi-Fiルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてみる。

#### 映像より音が遅れる

- 動画を見ている場合、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

### ワイヤレスサウンドシステム

#### サブウーファーから音声が出ない

- サブウーファーの電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する（取扱説明書の「電源を入れる」を参照）。
- **I/O**ランプが消灯している。
  - サブウーファーの電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。
  - サブウーファーの**I/O**（電源）ボタンを押して電源を入れる。
- **I/O**ランプが緑色にゆっくり点滅、または、赤色に点灯している。
  - I/O**ランプが緑色に点灯するようにサブウーファーの位置をバースピーカーの近くに動かす。
  - 「セキュアリンク接続を使う」（12ページ）の手順を行う。
  - 本機の表示窓に「NO DEV」が表示される場合は、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
- **I/O**ランプが緑色に速く点滅している。
  - お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

- **I/O**ランプが赤色に点滅している。

—サブウーファーの**I/O**（電源）ボタンを押して電源を切り、サブウーファーの通気孔がふさがっていないか確認する。

- サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくことがあります。
- SW音量+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げる（取扱説明書の「各部の名前」を参照）。

#### 音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使う。
- バースピーカーとサブウーファーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- バースピーカーとサブウーファーをできるだけ近付ける。
- Wi-Fiルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてみる。

### リモコンが機能しない

#### 本機のリモコンが機能しない

- 本機の**■**受光部に向けて操作する（取扱説明書の「各部の名前」を参照）。
- リモコンと本機との間に障害物を置かない。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換える。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

#### テレビのリモコンが機能しない

- 付属のAVマウスをつないでみる（11ページ）。

## その他

### HDMI機器制御がうまく働かない

- HDMI接続を確認する。
- テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う。
- つないだ機器が“プラビアリンク”に対応していることを確認する。
- つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。
- 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、“プラビアリンク”が影響して音声が出ないことがあります。その場合は、「CTRL」を「OFF」にするか（取扱説明書の「設定する」を参照）、映像機器の音声出力端子もテレビにつなぐ。

### 本機の表示窓に「PRTECT（プロテクト）」が表示される

- **I/□**（電源）ボタンを押して電源を切り、「STBY」が消えたら電源コードを抜き、本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

### テレビの無線LANがつながりにくい

- テレビから本機を遠ざける。
- テレビとアクセスポイント（無線LANルーターなど）をできるだけ近くに配置する。
- 本機とアクセスポイント（無線LANルーターなど）の使用チャンネルをできるだけ離れた周波数を使用するように設定する。
  - 本機のワイヤレスサウンドの無線チャンネルを変える。  
RF CH (RF CHANNEL) が「AUTO」に設定されていたら、「1」「2」「3」のいずれかに切り換えてみる（取扱説明書の「設定する」を参照）。  
「AUTO」：電波状況の良いRFチャンネルに自動的に切り換わります。  
「1」：周波数をCH1 (LOW 2.412 GHz) に設定します。  
「2」：周波数をCH2 (MID 2.438 GHz) に設定します。  
「3」：周波数をCH3 (HIGH 2.464 GHz) に設定します。
  - アクセスポイント（無線LANルーター）の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- お使いのテレビの無線LAN機能が5 GHz帯に対応している場合、5 GHz帯に切り換える。

## リセット

上記の処置をしても正常に動作しないときはリセットしてください。

- 1 パースピーカーの**I/□**（電源）ボタンを押して電源を入れる。
- 2 パースピーカーのINPUTボタンとVOL-ボタンを押しながら、**I/□**（電源）ボタンを押す。  
表示窓に「RESET」と表示され、メニュー や サウンドモードなど がお買い上げ時の状態に戻ります。

# 保証書とアフターサービス

## 保証書

- ・この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- ・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- ・保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## アフターサービス

### 調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

### それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、またはこのリファレンスガイドの裏表紙にあるソニー相談窓口にご相談ください。

### 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

### 保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

## 部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- ・型名：HT-ST7
- ・故障の状態：できるだけ詳しく
- ・購入年月日：
- ・お買い上げ店：

# 主な仕様

## バースピーカー (SA-ST7)

### アンプ部

実用最大出力 (非同時駆動、JEITA\*)

フロントL/フロントRスピーカーブロック : 50 W + 50 W (各チャンネル  
4 Ω、1 kHz)

センタースピーカーブロック : 50 W × 5 (各チャンネル 4 Ω、1 kHz)

### 入力端子

HDMI入力 1/2/3\*\*

デジタル入力

COAX

OPT 1(TV)/OPT 2

アナログ入力

### 出力端子

HDMI出力 TV ARC

\* JEITA (電子情報技術産業協会) による測定値です。

\*\* HDMI入力端子 (1/2/3) には、機能上の違いはありません。

### BLUETOOTH部

#### 通信方式

BLUETOOTH標準規格 Ver.3.0

#### 出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 2

#### 最大通信距離

見通し距離約10 m<sup>1)</sup>

#### 登録台数

9台まで

#### 使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)

#### 変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル<sup>2)</sup>

A2DP1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP1.3 (Audio Video Remote Control Profile)

### 対応コーデック<sup>3)</sup>

SBC<sup>4)</sup>、AAC<sup>5)</sup>、aptX

### 対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

### 伝送帯域 (A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz (44.1 kHzサンプリング時)

1) 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。

2) BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

3) 音声圧縮変換方式のこと

4) Subband Codec の略

5) Advanced Audio Codingの略

### フロントL/フロントRスピーカーブロック部

#### 形式

2way スピーカーシステム

アコースティックサスペンション型

#### 使用スピーカー

ウーファー : 65 mm コーン型、磁性流体スピーカー

トゥイーター : 20 mm ドーム型

#### 定格インピーダンス

4 Ω

### センタースピーカーブロック部

#### 形式

フルレンジスピーカーシステム

アコースティックサスペンション型

#### 使用スピーカー

65 mm コーン型、磁性流体スピーカー × 5

#### 定格インピーダンス

4 Ω

## 一般

### 電源

AC 100 V、50/60 Hz

### 消費電力

電気用品安全法による表示：50 W

HDMI機器制御がオフ（切）のとき（スタンバイ状態のとき）：0.5 W以下

BLUETOOTHスタンバイのとき：0.5 W以下

### 最大外形寸法（約）（幅/高さ/奥行き）

1080 mm × 109 mm × 110 mm（グリル非装着、スタンド非装着時）

1080 mm × 109 mm × 129 mm（グリル装着、スタンド非装着時）

1080 mm × 129 mm × 138 mm（グリル装着、スタンド装着時）

1080 mm × 129 mm × 130 mm（グリル非装着、スタンド装着時）

### 質量（約）

7.9 kg（グリル装着、スタンド装着時）

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

## サブウーファー（SA-WST7）

### 実用最大出力（非同時駆動、JEITA\*）

100 W、4 Ω、100 Hz

\* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

### 形式

サブウーファーシステム、パッシブラジエーター型

### 使用スピーカー

180 mm コーン型

200 mm × 300 mm コーン型、パッシブラジエーター

### 定格インピーダンス

4 Ω

### 電源

AC 100 V、50/60 Hz

### 消費電力

電気用品安全法による表示：30 W

スタンバイ状態のとき：0.5 W以下

### 最大外形寸法（約）

241 mm × 391 mm × 411 mm

（幅／高さ／奥行き）

### 質量（約）

11.2 kg

## ワイヤレストランシーバー（EZW-RT20、バースピーカーおよびサブウーファーに内蔵）

### 通信方式

Wireless Sound Specification version 1.0

### 使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4000 GHz - 2.4835 GHz)

### 電源

DC 3.3 V、300 mA

### 変調方式

DSSS

### 最大外形寸法（約）

30 mm × 9 mm × 60 mm（幅／高さ／奥行き）

### 質量（約）

10 g

## 本機で対応するデジタル音声入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

Dolby Digital

DTS-HD High Resolution Audio\*

Dolby Digital Plus\*

DTS-HD Low Bit Rate\*

Dolby TrueHD\*

MPEG2-AAC

DTS

リニアPCM 2ch 48kHz以下

DTS 96/24

リニアPCM最大7.1ch 192kHz以下\*

DTS-HD Master Audio\*

\* HDMI接続のみで入力可能です。

## HDMI部

### 入力／出力 (HDMI Repeater block)

ファイル	2D	3D		
		Frame packing	Side-by-Side (Half)	Over-Under (Top-and-Bottom)
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

## 環境配慮情報

- デジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。
- オートスタンバイ機能。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support>

**使い方相談窓口**

フリーダイヤル  
.....0120-333-020

携帯電話・PHS・一部のIP電話  
.....050-3754-9577

**修理相談窓口**

フリーダイヤル  
.....0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話  
.....050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は  
こちらへお問い合わせください。

**FAX (共通) 0120-333-389**



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

**「306」+「#」**

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



x.v.Color

 **DOLBY**  
TRUEHD

 **dts-HD**  
Master Audio

 **Bluetooth**®

